サギゴケ科サギゴケ属

ムラサギサギゴケ(紫鷺苔)

Mazus miquelii Makino

自生環境

湿地、あぜ、河川敷など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因

今のところ特になし

市内全域にごく普通で、今のところ 絶滅の心配はありません。しかし目 の敵にしすぎるのは考えもの。地域 に育つ野の花として、やさしく見守る 気持ちを大切にしたいところです。

特徴

- ☆ 湿った野原やあぜなどに多い多年草です。 地を這いながら伸びる匍匐枝を出し、節々から根を出して広がっていきます。 同じ仲間のトキワハゼは、 ムラサキサギゴケにそっくりですが、 このような匍匐枝を出すことはありません。 従来はゴマノハグサ科に分類されていましたが、 DNA 解析に基づいた新しい分類ではサギゴケ科として独立したグループになりました。
- ☆ 春に直径 1.5 ~ 2cm ほどの紫色の花を次々咲かせます。 群生している場所ではあたり一面が紫色の花のじゅうたんとなります。 花の下唇は、 真ん中に黄色やオレンジ色の斑点模様があります。 花色の濃淡は株によって異なります。
- ☆ 雌しべの先は2つに裂け、蛇が口を開けたような形になっています。ここに花粉がつくと、その刺激で口が閉じます。これはついた花粉を落とさないための技で、柱頭運動と呼ばれます。

市内の分布状況

市内全域、湿った場所にごく普通に見られます。しば しば群生して、春に紫色の 花のじゅうたんとなります。



ムラサキサギゴケは花がキレイなため、園芸植物や山野草としても人気があります。典型品のムラサキサギゴケのほか、花色ちがいの品種で、白色のシロバナサギゴケ、ピンク色~赤紫色のモモイロサギゴケも栽培されています。従来、典型品をムラサキサギゴケ、白花品をサギゴケと言いましたが、近年は前者をサギゴケ、後者をシロバナサギゴケと呼ぶようになりつつあります。











わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!